

くびらくも



子どもと上手に過ごす冬休み

冬休みがやってきます。年末年始は、子どもたちにとって家族と過ごす大切なときです。保護者の皆様にも子どもたちとしっかりふれ合っていたいただきたいと思います。

ところが、長い時間子どもと一緒にいると、子どものいろいろなところが気になって、むしろ叱る場面が増えてしまい、余計に子どもとの距離が遠くなってしまった、などということになりかねないという方がいるかもしれません。

そこで、そういうことにならないように、ドロシー・ロー・ノルトさん（アメリカ・家庭教育に生涯を捧げた教育家・1924～2005）の「子は親の鏡」という詩の一部を紹介します。

**「誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる」**

全文は控えさせていただきます。もし全文をご覧になりたい方は、ドロシーさんの書かれた、「子どもが育つ魔法の言葉」という本をご覧ください。ドロシーさんの詩の全文についてその思いが詳しく説明されています。

例えば、1行目の言葉からは、「子どもは、自分を誉めてくれる親を見て育つことで、友だちとの関係でも相手の良い所を認めて仲良くやっていくことの大切さを学びます。こうして、子どもは、相手の長所を認められる明るい子に育ちます。」という教えです。

大掃除などを子どもに手伝わせるときには、親として、誉めて、愛して、認めて、見つめてやりましょう。たとえ、仕事ぶりが、しぶしぶでも、ゆっくりでも、下手でも、ぐっとこらえて。

良い年の瀬をお過ごしください。

赤い羽根共同募金 (12/5～7)

児童会役員が、募金活動を行いました。8,871円ものお金が集まりました。このお金は南知多町社会福祉協議会へ届けさせていただきました。ご協力感謝申し上げます。



青少年を育てる会

「読み聞かせ会」(12/7,8)



お忙しい中、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

絵本村読み聞かせ会(12/7)



非常食喫食体験(12/8)



3年生左義長学習(12/12)



1月28日の左義長当日を目指して、織づくりが始まりました。郷土の文化を学ぶ機会としています。当日が楽しみです。

なかよしタイム(12/13)

大縄跳びの練習をしました。



12/22 2学期終業式校長あいさつ

あいさつで 心温まる冬休みを

いよいよ冬休みですね。楽しみです。お年玉。校長先生も子どものころを思い出します。

さて、2学期の終業式にあたって、あいさつについてお話をします。

皆さんに聞きます。今朝、学校に来て、先生や友達に元気にあいさつができた人、手を挙げて！

あいさつは、相手が好きな人だからするとか、相手が嫌いな人だからしないとか、知らない人だからしないとかではありません。嫌いな人にでも知らない人にでもできなければいけないのがあいさつです。おじぎもあいさつの大切な動作です。

自分のことを大切な人間だと思われたければ、人間としての約束を守らなければなりません。その中でも最も大切な約束が、あいさつだと校長先生は思います。

校長先生は、大人になればだれでもあいさつができるようになるとは思っていません。あいさつのできない大人もいるかもしれないからです。

みんなが、大人の人に「おはようございます」って呼びかけても、にっこり「おはよう」と答えてくれなかった大人の人、いませんか。もし、そんな大人の人がいいたら、立派な大人とは言えませんね。

そこで、皆さんへの冬休みの宿題です。

この冬休みには、普段よりいろいろな人と出会う機会があると思います。その時、笑顔で、相手に届く声の大きさと、相手より先に、あいさつをしてください。

もちろん、病気や交通事故などに合わないよう、くれぐれも気をつけてください。

気持ちのよいあいさつをして、心温まる冬休みを過ごしてください。